

陰湿な組織破壊攻撃をうちくたごう！



79.6.7
No. 140
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二二五八九(公巻)三三三二七二〇七

変わりらない『本部』暴力集団の本質

「本部」暴力集団はオルグならざる「オルグ」とデタラメ極まるデマ宣伝をもって動労千葉破壊策動を続けています。4・28〜5・1の全国動員による組織破壊暴力「オルグ」は見事に失敗し、「本部」暴力集団は一〇四臨中で「千葉に入れたことが成果だ」「総括は後にはばす」「至難」「困難」という総括をせざるを得ませんでした。そこで「本部」暴力集団はやり方を変え、一見紳士風を装い、年輩者を先頭に立てた「オルグ」を各支部や出先、折り返し駅等で行っています。

暴力襲撃の実態と経過

4・28〜5・1「オルグ」に至る動労千葉破壊策動はまさに暴力一辺倒でやられてきました。

4/10 津田沼、約二〇〇名。

4/11 錦糸町駅、四〇〇名。

4/12 勝浦、館山、成田、新小岩、総数約六〇〇名。

4/15 勝浦、二〇〇名。

4/17 津田沼、一五〇名(片岡支部長重傷)

4/19 幕張、蘇我、成田、銚子、佐倉、新小岩、総数約八〇〇名。

4/20 館山、勝浦、木更津、蘇我、千葉運転区、津田沼、総数約七〇〇名。

4/21 千葉運転区、新小岩(総数約六五〇名で新小岩支部結成大会妨害)

このような「青竹、ボール、かけや、ノコギリ、ペンチを携行し、多数の暴力で相手を屈服させる」という破壊襲撃は、「本部」暴力集団の本性を示すものです。

なぜ暴力襲撃をしたのか

この無法な暴力は何の目的で行ったのか。

第一に、動労千葉の労働条件と職場状況を支えている一四〇〇名の団結を手段を選ばず破壊し、そのことよって動労千葉組合員の正しい運動への確信をグラつかせ、その動揺の中へ4・28〜5・1の大量「オルグ」を投入して「結成準備会」なるものをデッチ上げる。

第二に、このことを通して「オルグ」に來た全国のまじめな組合員に「逆らうと千葉のように暴力でやるぞ」と脅迫する。

さらに、以上のような破壊「オルグ」の結果を一〇四臨中で、強引に、「満場一致」で決定する。これが「短期決戦論」の本質なのです。

まさに、「組合内の権力を握るために、また、一旦手に入れた権力を手放さないためには何でもやる。異なった意見は規約・規則を無視し、暴力を行使してまで排除する」という「本部」暴力集団の体質をあますところなく示した考え方です。

猫ナデ声を出しても動労千葉破壊の狙いは同じ

次期全国大会でこの「千葉問題」の責任を問われる「本部」暴力集団は、その責任逃れのために5・2以降の陰湿な組織破壊攻撃に出てきたのです。弱い立場にある短期転勤者を「本部の言うことを聞かないと希望地へ帰さない」などと脅迫し、一方では各支部や出先で、いかにも紳士的に行ふまいつつ、動労千葉組合員をごまかそうとしています。

当面、千葉の組合員の獲得ができない「本部」暴力集団は、たとえ短期転勤者だけでも「中央本部側」の支部をデッチ上げ、そのことを口実に国鉄当局に圧力をかけ、動労千葉の団体交渉を妨害し、国労や鉄労の組織介入を哀願し、そのことによって動労千葉の強固な団結によって保障されている労働条件を破壊しようとしているのです。これが5・2以降の陰湿な組織破壊攻撃の真の狙いであり、「本部」暴力集団の体質は暴力襲撃のときとなんら変わっていないのです。

団結署名と支部結成大会の一〇〇%完遂へ向けて

われわれは各支部や出先あるいは家庭訪問による「オルグ」が、結局はわれわれの団結と、その団結によって保障されている労働条件をブチ壊す以外の何ものでもないということを自覚し、攻撃者に対しひとりひとりがき然と対峙しなければなりません。

「本部」暴力集団は本来の特性である暴力に訴えたい衝動を必死でヤセガマンしながら、猫ナデ声を振りまいているのです。

この「本部」暴力集団の陰険で邪悪な策動に対し、第二回臨大方針に踏まえ一〇〇%の団結署名と支部結成大会、各分科結成委員会の成功をもって応えてゆこうではありませんか。